

## \* 編集後記 \*

最近は地球温暖化の影響で台風の勢力・持続力が高まり、局地的豪雨も頻発し川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害も大型化し発生回数も増加しています。記憶に新しい災害としては、平成26年8月広島土砂災害、平成27年9月関東・東北豪雨災害、平成28年8月北海道豪雨災害、平成29年7月九州北部豪雨災害が思い起こされます。

さて、本号の展望では、「補強土と IS Kyushu」と題して、熊本大学大学院大谷順教授にご執筆いただきました。大谷先生の補強土に関する研究経緯の一端に触れることができ、ジオシンセティクス技術の今後の発展に広く参考になるものと感謝申し上げます。技術報文は、道路の盛土構造物にRRR-B工法を適用する場合の設計・施工マニュアル、道路における補強土壁の維持管理に関する取り組み、コンクリート接着性防水シートの適用事例、材料強度と地盤特性に含まれる安全裕度を考慮した設計手法の4編を掲載しました。いずれもジオシンセティクスの有用性を示した論文です。

末筆になりましたが、ご多忙のなかで原稿の執筆を快諾していただきました方々と、編集にご協力いただきました方々に心よりお礼を申し上げます。

本号担当：原田尚幸、梶尾孝之、山中光一

### I G S 日本支部編集委員会(名簿)

委員長	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科くらし環境系領域社会基盤ユニット
幹事	西村 淳	三井化学産資(株) 環境資材事業部
幹事	梶尾 孝之	太陽工業(株)国土環境エンジニアリングカンパニー 技術センター
委員	内村 太郎	埼玉大学大学院理工学研究科
委員	江崎 孝二	ユニチカ株式会社
委員	荻迫 栄治	清水建設(株)技術研究所
委員	川島 則子	(株)クラレ 原料資材第二部
委員	小浪 岳治	岡三リビック(株)技術開発部
委員	高橋 真一	(株)大林組技術研究所
委員	土橋 和敬	前田工織(株)環境資材事業本部水環境保全推進部
委員	原田 尚幸	(株)銭高組技術本部技術研究所
委員	平泉 顕	ユニチカ株式会社
委員	山中 光一	日本大学大学院理工学部

### I G S 日本支部会員現在数 (2017年11月現在)

個人会員 190名 学生会員 13名 特別会員 18社 合計 221名

平成29年11月25日

ジオシンセティクス技術情報 (国際ジオシンセティクス学会日本支部・会誌) Vol.33, No. 1  
発行：国際ジオシンセティクス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 (公益社団法人 地盤工学会内)

事務連絡：〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

埼玉大学 レジリエント社会研究センター 桑野研究室内

TEL 048-858-9239 FAX 048-858-9239 E-mail secret@jcigs.org